

(8) 中国



中国地域では、景気はやや弱まっている。

- ・ 鋳工業生産は緩やかに減少している。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は悪化しつつある。

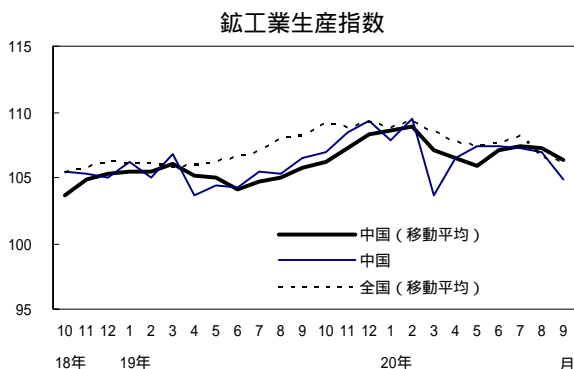
前回調査からの主要変更点

	前回（平成20年8月）	今回（平成20年11月）	
景況判断	回復の動きに足踏み	やや弱まっている	
鋳工業生産	堅調に推移しているものの、一部に弱い動き	緩やかに減少	
個人消費	おおむね横ばい	やや弱含み	
住宅建設	大幅に減少	大幅に増加	
雇用情勢	改善の動きに足踏み	悪化しつつある	

1. 生産及び企業動向

(1) 鋳工業生産は緩やかに減少している。

鉄鋼は、自動車向けを中心とした需要が引き続き好調だったことから、増加しているものの、足下では減少している。化学は、一部の事業所で定期修理があったことに加え、合成ゴム原料などに減産傾向が出始めたことから、減少している。輸送機械は、欧州及び新興国向けに生産が好調であったことから、増加している。一般機械は、建設機械、印刷機械の生産が低調だったことから、減少している。電子部品・デバイスは、液晶テレビ及びパソコン向けの生産が好調だったことから、増加している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。
2. 全国及び中国の大線は後方3か月移動平均。

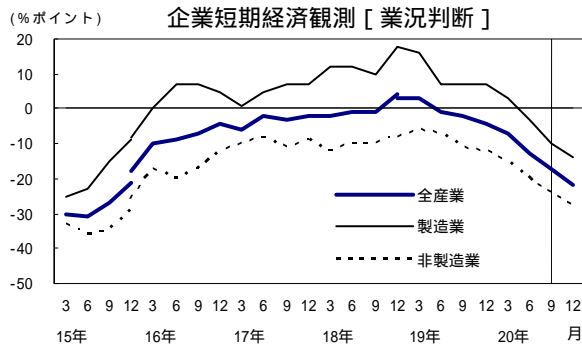
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
鉄鋼	16.5	1.2	0.5	5.0	7.6
化学	16.1	4.0	5.8	4.6	1.3
輸送機械	14.8	1.5	0.9	1.8	31.5
一般機械	10.7	11.1	6.4	4.1	3.7
電子部品・デバイス	7.3	5.5	2.5	1.1	-
鋳工業	100.0	0.1	0.7	0.6	2.5

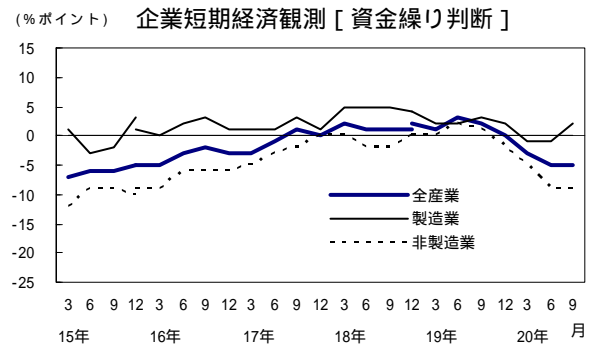
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 7~9月期は速報値。
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

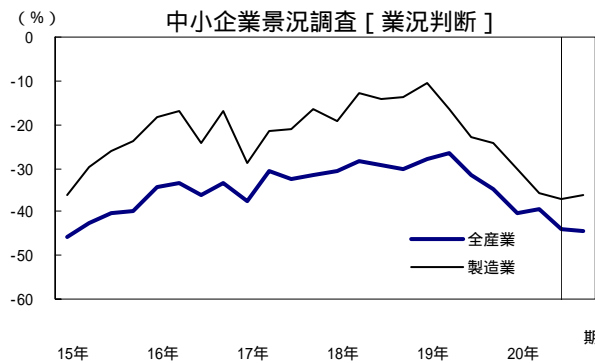
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年12月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

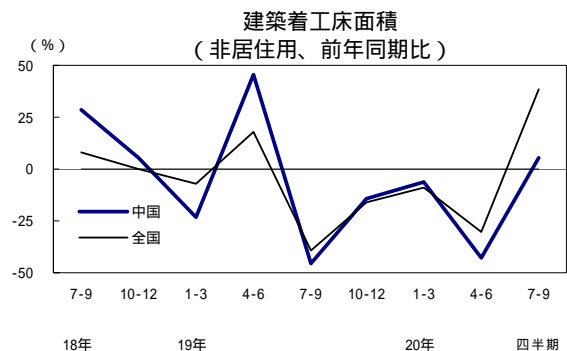
「米国向け自動車販売台数の減少が激しく、受注計画も大きく下振れしている。携帯関連も買換え需要の低迷が続いており、ますます悪くなっている(電気機械器具製造業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	9.4	1.3 (3.3)
製造業	5.8	2.8 (3.1)
非製造業	15.8	8.0 (3.7)

(備考) ()は前回(6月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

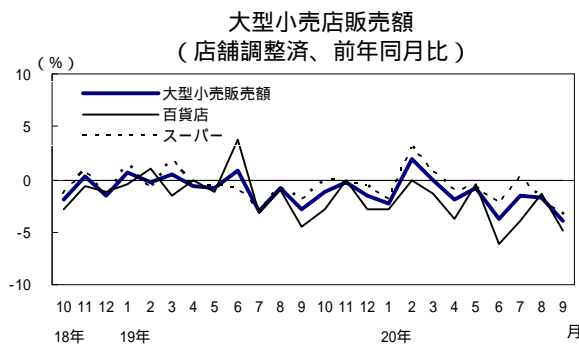
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、猛暑により日傘や帽子の動きが良かったものの、クリアランスセールや中元が低調だったことから、前年を下回った。8月は、中旬以降の気温の低下により、婦人物のブラウスなどの秋物が動き出したものの、衣料品が全般的に低調だったことから、前年を下回った。9月は、衣料品全般やアクセサリ・バッグなどの身の回り品が低調だったことから、前年を下回った。なお、中国四国百貨店協会によると、10月の中国地区の百貨店売上高は、前年同月比で5.5%減となっている。

スーパーは、飲食料品で夏物飲料や精肉などが好調だったものの、衣料品、身の回り品などが低調だったことから、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

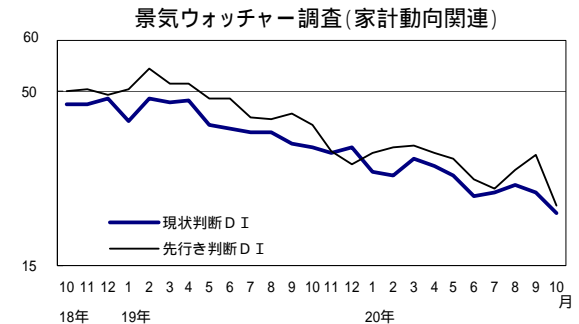
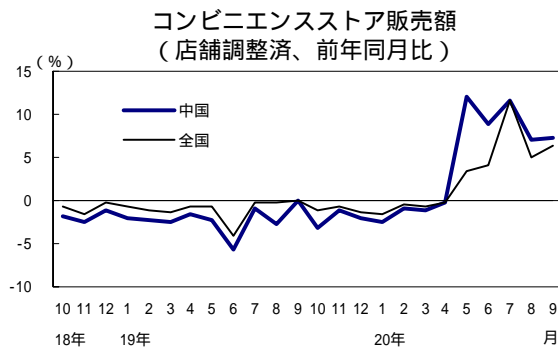
「AV機器、特にテレビは売上数量は確保できたが、単価は非常に安く、乱売状態である。昨年の2倍の台数を売り、やっと売上額が同じという状況である(家電量販店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	19年10-12月	20年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	1.0	0.3	2.2	2.3
百貨店	2.0	1.6	3.5	3.4
スーパー	0.4	0.5	1.4	1.7
コンビニ	2.1	1.5	6.9	8.6
景気ウォッチャー	38.3	34.4	32.2	30.1

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

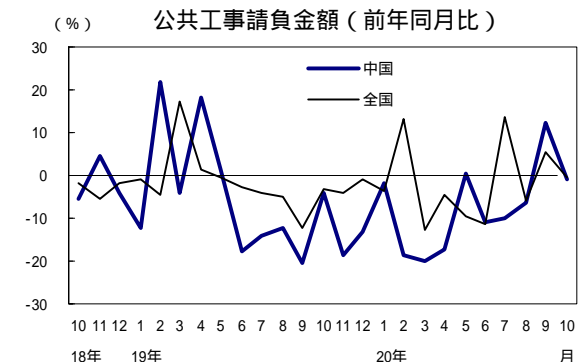
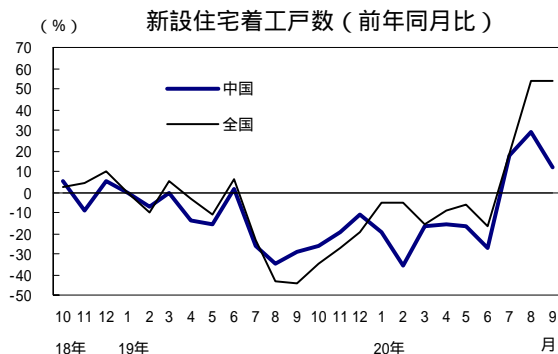
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

建築基準法改正の影響により前年の水準が低いため、貸家を中心に大幅に増加している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を下回っている。

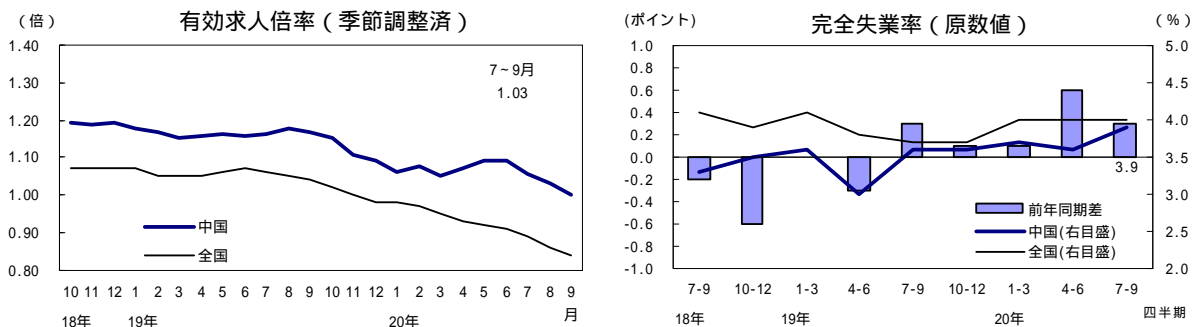


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は悪化しつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月)[雇用関連(現状)]

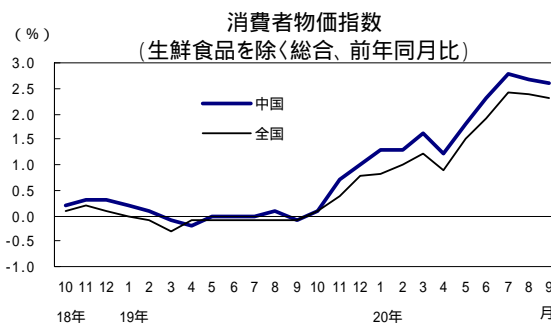
「大手電機メーカーの一次下請け部品メーカーにおいて、数十名の派遣社員の契約打ち切りを実施した。最悪の場合はゼロにするとの話も出ている(民間職業紹介機関)」など「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年10-12月	20年1-3月	4-6月	7-9月	20年10月
倒産件数	156	161	199	189	59
(前年比)	0.0	1.9	38.2	31.3	5.4
負債総額	624	524	662	3,289	179
(前年比)	58.5	14.3	45.8	266.8	26.3



景気ウォッチャー調査 (10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・景気が悪くなり、円高が進んだため、外国人来場者が減った(ゴルフ場)

<先行き>

・ガソリンが安くなっている分、冬の灯油代の心配をしなくてもよくなると思う反面、世界同時株安の影響や円高の影響は地方都市についても少なからずあると思うので、相殺して変わらない(一般小売店)

